



● 「たじみ環境フェア 2025」に参加しました

2月16日（日）恒例の「たじみ環境フェア 2025」がヤマカまなびパークで開催されました。

今年のテーマ「広げよう 自然とエコのまち つなげよう多治見の未来へ」のもと9時20分高木市長を招いてのオープンセレモニーの後、9時30分から15時30分まで多くの来場者があり、盛況でした。

多治見の環境フェアは、市内の小中学生、環境市民団体、企業、行政など広い年代、分野からたくさんの人や団体の参加があるのが特徴です。



市長と一緒に記念写真



まち美化推進協議会 展示

アピール方法も、①体験、②活動発表会、③展示などがあります。

辞書によれば「環境」とは「それを取り巻く周りの状況」とあります。つまり身近なことでも環境を考えることになります。

来場者も若年層、家族連れ、高齢者などの幅広い世代を想定し、スタンプラリーやクイズなどを取り入れ、親しみやすい環境フェアを目指しています。また来場者全員が「エコ宣言」を書いた星形のメッセージをボードに貼っていった結果、ボード全体が華やかになりました。

「多治見市まち美化推進協議会」はブースに出展しました。展示内容は、①市民イベントでの美化啓発活動、②犬のしつけ方教室での飼い主への啓発、③美化推進重点地区での美化パトロー

ル活動など写真を中心に紹介しました。

また、絵の得意な元会員の作品「ごみの散らばっていないきれいなまち」をパネルの上部に掲示するのが特徴となっています。

なお、今年初めて当協議会ブース来場者にアンケートの協力をお願いしました。予想を上回り、94名の方から回答をいただきましたので、今後の活動の参考とさせていただきます。
【落合】

●たじみ環境フェア 2025 の展示準備及び交流会

「環境フェア 2025」は2月16日（日）に開催され、エコ宣言「広げよう自然とエコのまち つなげよう多治見の未来へ」の展示テーマをスローガンに2月15日（土）の昼から会場準備に入りました。

「まち美化推進協議会」のメンバー7名はヤマカまなびパークの7階に集合で、13時より「多治見のまちをきれいした絵画」、「ラミネートで表示した活動写真」、「美化推進重点地区の地図」「SDGsの目標」や「クイズ7の問題」等の展示物の準備に取り掛かりました。

今年はクイズの他に「まち美化推進協議会のアンケート」を作成し、記入のお礼に「お菓子セット」を準備し、本番の16日に配布するようにしました。展示品の準備完了した14時より、ヤマカまなびパークの5階大会議室で交流会に参加しました。交流会は発表2例と質疑応答で、環境フェア関係者約30名が参加し、環境フェアを盛り上げようとする機運がありました。

交流会では「グリーンライフ21・プロジェクト」代表の松崎英之さんより陶磁器のリサイクル活動の事例や活動状況の講演がありました。

グリーンライフ21・プロジェクトは1997年に美濃焼の地で環境に配慮した陶磁器の産地の形成をテーマに地元の企業や試験機関で設立され、やきものの資源循環と環境負荷の少ないモノづくりや快適なエコライフの創出を目的としています。

プロジェクトは家庭から出る陶磁器食器を粉砕し20%のリサイクル材として再利用、成形・焼成され、製品販売されています。20%配合したRe食器なので「Re20」と名づけ、日用品・陶磁器の分野にエコ製品として展開されています。2011年には不要食器の配合率50%に成功し、この食器は「Re50」と名づけられました。温度を通常磁器よりも低い1150度で焼かなければならない制約条件はありますが、リサイクル原料の配合率50%になる事も踏まえて、環境負荷の少ない食器を製造することが出来る技術を持っていることが証明されています。

なお、多治見市で回収され粉砕される陶磁器は一般の家庭からの食器で「Re食器」になる物もあれば、タイルや衛生陶器で再利用や、その他の方法でも再利用されています。依頼があればゴルフ場のバンカーの砂に利用されるケースもあります。

回収から粉砕、再利用に至るリサイクル原料を使用するしくみは、世界中でも例を見ないものです。美濃焼という産地でこそ出来るサーキュラーエコノミー実現に向けて継続して取り組んでいるそうです。

2例目として市民団体の代表として、「多治見気象の会」の吉田信夫さんの講演がありました。

吉田さんは、2002年に「多治見の気温をはかる会」を組織しました。

最初は「多治見はなぜ暑いのか?」「フェーン現象か?」「名古屋や岐阜からの熱風からか?」と検証した結果、多治見市が暑い原因は次の3つが考えられることが解ったとの説明でした。

- ① アメダス測定器周辺の局所的環境の影響
- ② アメダス測定器の風上地域の土地利用変化
- ③ 広域的な気圧配置などの影響

有志7名により、2004年には多治見市内を移動温度測定器を持ち歩き分布測定した上で、地域毎に温度分布図を作成し、そして2007年に編集委員会を結成して報告書をカラー印刷で80部作成したそうです。この報告が日本気象協会奨励賞を受賞し、その賞金で手作りのロガー一式温度計を3台製作しました。これで、多治見インターチェンジ近辺の高速道路に設置されてあるアメダス測定器と同一方式となったとの発表でした。

吉田さんは2012年には「多治見気象の会」を組織されました。

環境フェアの際には、毎回、準備完了後に交流会と称して環境活動事例の発表があり、環境問題に取り組む仲間が増えることは素晴らしい限りです。今後も多治見市に環境にやさしい団体、新しい仲間が増えることを期待します。 【西迫】

●多治見市消防出初式でまち美化パトロールを行いました

1月12日、多治見市消防出初式が行われました。昨年の出初式は能登半島地震のため式典のみに縮小して開催されました。今年は穏やかな年明けを迎え、式典の後、消防関係者、車両による分列行進パレードや、小学生の防火演習披露、一斉放水等が粛々と披露されました。

まち美化推進協議会は、月1回多治見市の美化推進重点地区を中心にゴミ拾いを兼ねた美化パトロールを実施していますが、出初式や、陶器まつり、花火大会、多治見まつりなどの大きなイベントのある月は、美化パトロールをイベント会場での美化啓発、PR活動に置き換え実施しています。

この日も、協議会メンバー、多治見市役所環境課職員の計6人で、「多治見のまちをきれいに」の「のぼり」を持って、出初式会場に立ちました。決して目立った活動ではありませんが、会場を訪れた人たちの目に、少しでも留まってくれば幸いです。

併せて多治見市役所本庁舎から出初式会場の往復道中、本町おりベストリート～多治見橋～新町～広小路～多治見市役所本庁舎と規模を縮小して美化パトロールも実施しました。巡回地域の美化状況は大変良く、タバコの吸い殻だけが、未だ点々としてあるものの、空き缶や廃プラなどはほとんどありませんでした。

活動の年度始まりは4月ですが、新年最初の行事である出初式を起点に、今年も又、多治見市の美化推進活動に頑張っ取り組んでいきます。 【高木】



出初式啓発の様子

●環境フェア 2025 のまち美化推進協議会ブースでアンケートを行いました

94名の方に丁寧なアンケート回答をいただきありがとうございました。結果をまとめたので、報告します。

Q1 多治見市に「まち美化推進協議会」があることを知っていましたか？

回答 31名「知っている」、25名「知らない」、38名「今日の展示で知った」

Q2 多治見市に「まち美化推進重点地区」があることを知っていましたか？

回答 21名「知っている」、39名「知らない」、34名「今日の展示で知った」

Q3 多治見市の「多治見市をごみの散らばっていないきれいなまちにする条例」を知っていましたか？

回答 12名「知っている」、42名「知らない」、36名「今日の展示で知った」、4名「興味をもった」

Q4 あなたがまちをきれいにすることで既に行っていること

「ごみを拾う」「町内清掃」「ポイ捨てしない」等

Q5 今後、あなたがまちをきれいにすることで出来そうなこと

「子どもたちに伝えていく」「ごみ拾い」「なるべく地元で買い物」「にぎわうまちづくり」等

協議会では、今後みなさんに積極的に情報提供を行っていきます。ご意見や情報を募ります。

【犬塚】



4月16日(水) 定例会

4月20日(日) たじみ陶器まつり啓発活動

5月11日(日) 美化パトロール

5月14日(水) 定例会

6月11日(水) 定例会

6月15日(日) 美化パトロール

定例会、美化パトロール等に
参加していただける方を
随時の募集中です。
ご興味のある方は
事務局まで、ご連絡ください。



📱QRコード

多治見市まち美化推進協議会の情報がホームページで見ることができます。
まちピカ通信のバックナンバー、予定が掲載されています。
お気軽にアクセスしてください。

まちピカ通信 第75号 2025年3月発行

(次回 2025年6月発行)

多治見市まち美化推進協議会 会長 落合宇光

《会員》 磯村美代子・亀井芳樹・高木勝美・中村京子

・西迫静隆・水野美恵子・渡邊月光

【まち美化推進協議会事務局：多治見市役所環境課廃棄物対策グループ担当 犬塚】

☎ 22-1580 (直通) 📠 22-1186 ✉ kankyo@city.tajimi.lg.jp